



外国語部会

外国語活動 外国語部

外国語活動・外国語部を通した 意志をもっている姿

外国語に慣れ親しみながら、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしようとしている姿

視点 1

自らの学びを つなぐ

【その姿に向かうために】

- 「誰に」「何のために」自分の考えや気持ちを伝え合うかを明確にした言語活動を設定することで、見通しをもって活動に取り組み、コミュニケーション場面において伝えたい内容や順序を整理したり、再構築したりすることができるようにする。
- 身の回りの人や物、自分に関することなど、身近で簡単な事柄について段階的に習得し表現できるよう、単元を入れ替えたり、単元を構成したりすることで、新出表現や既習表現を選択したり、生かしたりし、自分の伝えたい内容を伝えることができるようにする。
- 音声教材や画像、スライドや単語カード、思考ツールなどを単元の中で用いることで、段階的に表現に慣れ親しみ、自分の伝えたいものに近い言語材料を選択して、コミュニケーションを図ることができるようにする。
- クロムブックの録画や音声機能を使う時間や、視点を明確にした振り返りを用意することで、前回までの学習を想起し、自ら見通しや取組の変容を確認したり、目標をもって活動に生かしたりすることができるようにする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 身の回りの人や物、自分に関すること、日本や世界に関することなどを聞く、話す、書く、読む活動を行うことで、自分と他者や、日本と外国の文化や言語についての共通点や違いに気付き、理解する力や実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにする。
- コミュニケーション活動の間に、相手意識や目的意識を高めてやり取りをする子どもの姿や困り感をもった子どもの姿を見取り、友達の話し方や聞き方のよさ、言語材料や表現方法の工夫を交流し合う場を設定することで、問いかけや詳しく話すための言語材料、自分が伝えるために必要な表現方法を選び、始めのコミュニケーション活動よりも工夫してやり取りや発表ができるようにする。
- 色々な人と交流するためのワークシートや自分や友達の取組のよさに気付くことができるGOOD POINTカードなどを用いることで、友達の新しい一面を知るきっかけや自分の活動のフィードバックを得て、自分の学びにつなげたり、自分の活動のよさや成長に気付いたりすることができるようにする。

外国語活動・外国語部の成果と課題

【令和7年度の外国語活動・外国語部で目指した意志をもっている姿】

外国語に慣れ親しみながら、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしようとしている姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

子どもの本来の思いを引き出す言語活動の設定

子どもたちにとって身近な題材で、相手を明確にした言語活動を設定するように意識した。「ALT」「友達」など相手が明確になったことで、より自分の思いや考えを外国語で伝えたいという思いをもち、活動する姿が見られた。一方で、目的意識や相手意識が薄れると、自分から言語材料を選ぶ必要性がなくなり、子どもたちが本来言いたいものとかけ離れてしまう。

そのため、教科書の内容と子どもの実態を吟味した上で、子どもたちにとって身近な言語活動と対象を選び、より学びが深まるようにしていく。また、教科横断的な活動も視野に入れることで、外国語を使う時間を確保する。そうすることで、外国語に十分に浸りながら、粘り強く自分の思いを伝えようとする子どもの姿につながると考える。

コミュニケーション活動に生かすための

言葉や表現に慣れ親しむ単元の構成

自分の思いを伝える言語活動を設定するにあたり、外国語における新出表現や既習表現、子どもたちが話したいと思う身近な語彙を用意し、授業の中で選択したり、生かしたりして繰り返し親しむことのできる単元構成にした。そうすることで、子どもが安心感と自信を高めてコミュニケーションを図る姿が見られた。また、子どもの生活に寄り添った話題で、親しみをもって外国語を使う姿が見られた。しかし、限られた言葉や表現のため、慣れ親しみが足りない子どもがいたり、発話することに焦点が置かれ、相手を意識した話し方に問題意識が向かわなかったりする子どもの姿も見られた。そのため、外国語の言葉や表現に十分に慣れ親しむ時間とやり取りを充実させる時間を担保する必要がある。そうすることで、単元後半では自信をもって言語材料を生かして話したり、聞いたりする子どもの姿が見られ、さらに既習を生かしてより深みのあるコミュニケーション活動を行う姿に近付いていくと考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者のよさを生かすことができる

ツールやその使い方の工夫

子ども同士が互いの取組のよさや新たな一面に気付けるようにカードを活用した。それにより、自信を高めて外国語を使う姿や友達のよさに気付く姿が見られた。しかし、友達のよさに気付いたものの、自分の活動に取り入れたり、自らの学びにつなげたりしていない子どもの姿も見られた。また、カードを活用することで、友達をマイナスに評価する子どもも少なからず見受けられた。

子ども同士で学び合い、よりよい活動につなげられるよう、今年度活用したカードの使い方をより明確に提示し、友達の活動のよさを簡潔にまとめ、自分の活動に生かせるような形式や使い方にしていく必要がある。それにより、コミュニケーション活動を図る中で、多くの友達とやり取りを行うよさに気付き、友達の考えや表現の仕方のよさを取り入れることが自分の成長につながることを実感し、よりよい言語活動を図る子どもの姿を目指す。

学び合う雰囲気をつくるための教師の関わり

毎時間、振り返りを通して、子どもたちが外国語の言葉や表現、文化にどう親しんだのかを見取った。また、授業の中で前時の振り返りや困り感を子どもたちに共有した。そのため、友達の考えから言語や表現、文化に関する見方や考え方が広がったり、友達の困りを一緒に解決し、自分も活用しようとしたりする姿が見られた。一方で、特にコミュニケーション場面では、子どもたちの活動する様子から、既習の言語を生かした姿や多様な表現の仕方を活用する姿を見取ることが難しかった。

そのため、活動方法を工夫したり、交流場面で子どものやり取りする場面を取り上げる活動を積み重ねたりし、子ども同士で学び合う雰囲気をつくっていく。そうすることで、他者との関わりの中で、多様な言葉や表現の方法を知り、自分の学びに生かそうとする姿を目指す。

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

can を使った表現に慣れ親しみながら、自分が聞きたい情報を考えたり、友達に伝えたりしようとする姿

外国語科では、中学年で外国語に慣れ親しんできた経験から、より内容や表現の仕方を工夫して自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりすることにつなげたい。しかし、自分の思いを伝えることに抵抗感があったり、新出単語数が増え、習得・活用に苦手意識をもったりする子どもの姿が見られることがある。そこで、本単元では、安心感をもって活動できるようにグループ編成を行った。また、話す内容を整理するための選択肢を可視化する手立てを講じた。さらに、自分の得た情報を自信をもって友達に伝える姿につなげるために、やり取りの活動（インタビュー）と他己紹介を行う活動を繰り返し行う単元の構成にした。そうすることで、学習を重ねるごとに「友達に伝えられた。」という自信と「もっと友達に聞きたい。」「上手に伝えたい。」という姿が生まれると考える。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、子どもたちがより外国語に慣れ親しみ、自分の考えを表現したいという思いをもつことにつながる。

【単元の目標】

- ・ She/He is [can] …やその関連語句など紹介する語句について理解し、伝えたり、聞き取ったりすることができるようにする。【知識及び技能】
- ・ 紹介する相手に友達のできることや性格などについてよく知ってもらうために、簡単な語句や基本的な表現を用いて聞きたい情報を尋ねたり、伝え方を工夫して紹介したりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 紹介する相手に友達のできることや性格などについてよく知ってもらうために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

既習表現を生かして取り組む言語活動と単元構成

前単元では、自分のできることを伝え合っている。本単元では、「友達の知らない情報を集め、他己紹介をする」という言語活動を設定する。知らない情報とすることで、紹介する対象者に質問し、もっと情報を手に入れたという思いを生み、前単元の学習を生かして活動できると考えた。また、前単元で獲得した can を使ってインタビューをする活動と本単元の他己紹介をする活動を繰り返す構成にすることで、自分の取組を見直したり、新しい表現を使って取り組んだりする姿をねらう。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

思いを高めるカードの活用

本単元では、前単元を生かして「伝えることができた。」という思いと、「もっと知りたい。」や「新しく知ることができた。」という思いを引き出したい。そのために、2つのカードを活用する。「いいね」カードは、いいところを伝える手段として使う。「初耳」カードは今回の言語活動の「知らない情報」を意識させるために使う。友達が初耳カードをもらっている姿から、さらに質問したいという意欲や子ども同士で何を質問したかを聞き合う姿につなげていきたい。

【単元構成（8時間扱い）】

1・2時間目	3・4時間目	5時間目（本時）	6時間目	7・8時間目
クラスがもっと深くつながるために、友達が知らない情報を集めて、他己紹介をしよう！				
Unit 3 でできることについての聞き方がわかったよね。	どうインタビューしたらいいかな？	どんなカードがもらえたかを確認しよう！	他己紹介をしよう！（録画）	友達に他己紹介をしよう！（録画）
I can～、や I can't～で自分のできることやできないことが伝えられたよ。	Can you ～？で友達に質問すればいいね。	いいね（声）カードをもらえた！	聞いた情報を整理して、伝えられそうだ！	どんな伝え方をしたらいいかな？
他己紹介はどんな流れかな？	Can you play soccer? -Yes, I can. I can play soccer.	初耳カードをもらえた！	This is ～. She can play soccer. She can run fast. She can play Super Mario. Thank you for listening.	4年生で大切にしたいこと、はきはき。
She や He は自分や目の前にいる人じゃない人のときに使うんだ。	This is ～.から紹介をしたらいいね。	もう一度インタビューをしたいな。	初耳カードが集まっている！	アイコンタクトも大切！
She や He も can を使えばできることなどを伝えられるんだね。	紹介する内容が決まったら、本人にしよう！	どんな情報を集めたらいいかな？	他の人はどんな紹介をしたのだろう？	〇〇さんがゆっくり話してくれたから、聞き取りやすかったよ！
クイズをしながら、表現に親しもう！	他己紹介をしよう！（録画）	私は、ピアノができるか聞いたよ。	もう1回インタビューしたいな。	〇〇さんは料理ができることを初めて知ったよ！
Who is this? This is ～. She/He can play tennis.	This is ～. She can play soccer. She can run fast. Thank you for listening.	ゲームや食べ物についても聞けそうだな。	性格についても伝える方法があるんだね。	She や He を使って友達について紹介ができた。クラスのつながりも深まったね。
紹介する伝え方が分かった！	いいねカードをもらったよ！	インタビューしよう！	友達のことを can を使って紹介できるよ！	これから友達のいいところを見付けたいな。
	初耳カードをもらえた！	Can you play Super Mario? -Yes, I can. Can you eat wasabi?	みんなに伝えられそうだ！	次はどんな学習をするのだろう？
	みんなはどのカードをもらったのかな？	情報が集まった！	書く活動にも少し取り組んでみよう！	

【本時の目標】

もらったカードについて交流する活動を通して、まだ知らない情報を集めるという価値に気づき、聞きたい情報を整理して、既習を生かしながら友達に尋ねることができるようにする。

【思考力，判断力，表现力等】

【本時の展開】 (5/8)

子どもの意識と活動

つながっている学び

教師の意図とかかわり

<前時まで>

自分の紹介する友達にインタビューをし、グループに他己紹介を行っている。また、いいねカードや初耳カードをもらっている。本時では、「みんなはどんなカードをもらったのか。」「初耳カードはもらったのか。」という思いをもっている。

紹介する内容ができた。いいねカードがもらった。初耳カードをもらっている人はどんな発表をしたの？

○あいさつ、言語活動と振り返りの確認

○教科書の歌

どんなカードをもらったかを確認しよう！

○全体交流

前回他己紹介をして、カードをもらったね。

いいねカードをもらったよ。初耳カードをもらったよ！初耳カードをもらった人はどんな紹介をしたのかな？

私は〇〇について紹介したよ。This is ~. She can play soccer. She can run fast. Thank you for listening.もう1度インタビューをしたいな。

どんな情報を集めたらいいかな？

eatやcookを使えば、知らないことを聞けそう。ゲームのことも聞いてみていいんだ。原稿メモで考えたいな。メモが終わったら、インタビューをしてみよう。

○グループで原稿メモを絵カードで整理する

〇〇さんはスポーツは得意だから、音楽のことを聞いてみるかな。ぼくはワサビが食べられないけど、〇〇さんは食べられるのかな？たくさん質問して、話す内容を決めたいな。

○インタビュー

Can you play Super Mario? Yes, I can. I can play Super Mario. Can you drink coffee? Yes, I can. I can drink coffee.コーヒーが飲めるなんて、知らなかったな！

インタビューをして、友達の知らなかった情報を手に入れたよ。グループで紹介してみたいな。

○振り返り

Can you ~? を使って、友達に質問することができたよ。友達の知らなかったことを知ることができたよ。グループに紹介する前に、話す内容を決めたい。次は初耳カードをもらうことができるかな？

Unit 3 のカード

考える視点

Unit 3 絵カード 原稿メモ

Unit 3 のやり取り

言語活動を確し、前時に書いた振り返りを確認する。そうすることで、本時の見通しとめあてを確認できるようにする。
(視点1)

言語活動に立ち返り、初耳カードをもっている児童にどんな紹介をしたかを問うことで、インタビューをしたいという思いにつなげられるようにする。
(視点2)

動詞や名詞の掲示物を用意しておくことで、全体交流で内容について話題にできるようにする。
(視点2)

オクリンクプラスで絵カードを原稿メモとして活用することで、聞きたい情報を整理し、尋ねることができるようになる。
(視点1)

インタビューをするために情報を集め、聞いたたり、伝えたりした活動について振り返ることで、次時のグループ紹介への思いを高められるようにする。
(視点2)

【本時の評価】

もらったカードについて交流する活動を通して、聞きたい情報を整理し、既習を生かして友達に尋ねることができている。

(行動観察・原稿メモ・振り返り)

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 言語活動を「クラスの仲をさらに深めるために、友達の知らない情報を集め、他己紹介をする。」というように明確に設定できたことで、目的意識と相手意識をもって活動する姿が見られた。
- 前回の can を生かした言語活動や can を使ってインタビューする活動と他己紹介をする活動を繰り返す単元構成にすることで、徐々に can に慣れ親しみ、自信をもって英語を使う姿が見られた。
- オクリンクプラスの絵カードで質問する内容を選択できるようにしたことで、どの子も安心して取り組む姿が見られた。
- 子どもが友達に聞きたくなるようなスポーツや遊び、ゲームなどの言葉が載った掲示物を、全体交流の場で提示したことで、子どもたちの質問する内容のヒントとなったり、より身近な生活に根付いた話題となったりし、意欲的に質問する姿に繋げることができた。

【課題】

- 今回の単元は、友達のできることや性格を紹介する単元だった。前単元の繋がりを鑑みて、can を使って紹介する相手に質問をし、得た情報から他己紹介を行ったが、can を使った質問に限界があり、no(できない)と言われ続けてしまう子どももいた。粘り強く質問し続ける子どもの姿が見られたが、言語活動をさらに考えていく必要がある。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 子どもたちが「こう言いたいのに、どのように表現したいか分からない。」という思いを、黒板に記述させたり、教師が他の子どもに問いかけたりした。そのような手立てを講じることで、他者の学びを繋げることができた。
- 「もっと〇〇したい。」という思いを引き出すために、「いいねカード」と「初耳カード」を活用した。そうすることで、「もっと上手に言いたい。」「もっと知らない情報を集めたい。」という思いに繋げることができた。

【課題】

- 今回の単元はグループ活動を主にし、本時では他己紹介に向けての情報を得る場面を見せた。しかし、「他者の学びを自らの学びにつなぐ」の視点で意志が高まる時間とするには、自分で考える活動やペアの活動が多くなり、英語を使う場面も少なくなってしまった。そのため、色々な人とコミュニケーションを取る単元の流れを設定する必要があると感じる。
- 子どもにどんな質問をしたかを聞いたり、子どもの困りを共有する手立てをとったが、子ども同士で聞き合ったり、他の友達の表現の仕方を知ろうとする姿があまり見られなかった。そのため、日々の授業から子どもの思いを表現する場を設定して、クラスで解決したり、交流したりする授業作りをしていくことで、より他者の学びを自分の学びにつなぐ力を育むことができると考える。

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

注文のやり取りに慣れ親しみながら、日本各地の郷土料理の魅力を工夫して伝えたり、受け止めたりする姿

本単元では、「ご当地レストランを開いて、郷土料理の魅力を伝え合う」という言語活動を設定し、注文のやり取りの表現の仕方に慣れ親しむ。しかし、料理名や値段の言い方が多岐にわたる上、新出表現も含まれるなど、子どもたちが自信をもってやり取りをすることに抵抗感をもつと考えた。そのため、注文や会計のやり取りに自信をもつことができるよう、スモールステップで繰り返しお店屋さんごっこを行う。また、身に付けた注文と会計のやり取りを生かして、郷土料理を紹介する活動につなげる。このような手立てを講じることで、やり取りに慣れ親しむだけでなく、相手に魅力をより工夫して伝えようとする思いを生み出したり、聞いたことを受け止め、友達や日本のよさに気付いたりする姿を引き出すことをねらう。そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、子どもたちがより外国語に親しみ、自分や友達、日本のよさを見付けていこうという思いにつながる。

【単元の目標】

- ・What would you like?、How much is it?やIt's ~. など紹介する語句について理解し、伝えたり、聞き取ったりすることができるようにする。【知識及び技能】
- ・日本各地の郷土料理を楽しむために、それぞれのランチセットについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え方を工夫して紹介したりすることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・日本各地の郷土料理を楽しむために、それぞれのランチセットについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

自信を高めて活動できるようにする単元構成

本単元では、「日本各地の郷土料理の魅力を伝え合いたい」という思いを生む。そのために、単元前半では、料理名や値段の言い方を身に付けられるよう、品数や値段を徐々に多くしていく。また、単元後半ではお店屋さんごっこのリハーサルを繰り返し行うことで、注文のやり取りをする際の表現の仕方に慣れたり、工夫を考えたりすることができるようにした。そうすることで、最後のレストランの本番では、自信をもってやり取りを行う子どもの姿につなげたい。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

互いのよさを伝え合うお客様アンケートの活用

本単元では、「郷土料理の魅力をより詳しく伝えたい」という思いを引き出したい。そのために、グループでアイディアを出し合いながら活動していく。リハーサルやレストランの本番では、お客様アンケートを活用し、互いのよさに気付くことができるようにする。「郷土料理の魅力は伝わったか」と「その理由」という項目を設定することで、「より詳しく説明したい。」「他のグループのよさを取り入れたい。」と、思いを高める子どもの姿につなげたい。

【単元構成（8時間扱い）】

1～3時間目	4・5時間目	6時間目	7時間目（本時）	8時間目
ご当地レストランを開いて、郷土料理の魅力を伝え合おう！				
Unit 5で地域のおすすめの場所をリサ先生に伝えることができた。	カナダの郷土料理紹介 (Lisa先生)	お店を開く準備を進めよう！	どんなお客様アンケートをもらったか確認しよう	いよいよ開店！郷土料理の魅力を詳しく伝え合おう。
You can～.を使って、その場所でもできることも伝えられたね。	おいしそうだね。	最初と最後に何と言ったらよいのかな。	注文のやり取りはスムーズにできたよ。	詳しく、分かりやすく伝えよう！
レストランではどんなやりとりをするのかな？	食べてみたいな。	郷土料理を紹介してみよう。	魅力をもっと詳しく歌えたいな。	4年生で大切にしたいゆっくり、はきはき。
What would you like?と尋ねるんだね。	popular, sweetなどの言葉を使って料理を紹介しているね。	有名だと伝えたい。	料理をどのように紹介したらよいかな？	味や様子も教えてくれたから、郷土料理の魅力が伝わってきたよ。
How much is it?で値段を尋ねることができるんだ。	日本の郷土料理にはどんな物があるのかな。	It's ~.を使って料理の説明をしてみよう。	味や様子をもっと詳しく伝えたいね。	〇〇地方の郷土料理を初めて知ったよ！行って食べてみたいな。
お店屋さんごっこをしながら、表現に親しもう！	ピクチャーディクショナリーで調べよう。	Welcome to ~. This is OO lunch. Takoyaki is popular. What would you like?	料理に使われている食材も伝えてみよう。	料理の説明を詳しくできた。みんなで日本の各地の郷土料理を楽しむことができたね。
What would you like? I'd like ~.	もっと日本の郷土料理を知り、伝えたいね。	お客様アンケートを使って、よかったところを伝え合おう。	お客さんに質問をしてみよう。	これから日本のよさを見付けたいな。
注文とお会計のやり取りができるようになってきた！	日本各地の郷土料理を調べてランチメニューを作ろう。	お客さんアンケートを使って、よかったところを伝え合おう。	Welcome to ~. This is OO lunch. Takoyaki is popular. Ise lobster is delicious... What would you like?.	他の国にはどんな料理があるのだろう？
	ランチセットが完成したよ。みんなに紹介したいな。	郷土料理の魅力を伝えるには、もっと工夫ができそうだ。	開店できそうだ！	

【本時の目標】

もらったお客様アンケートを振り返ることを通して、郷土料理の魅力をより詳しく伝えるために言葉や表現を付け加え、伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（7/8）

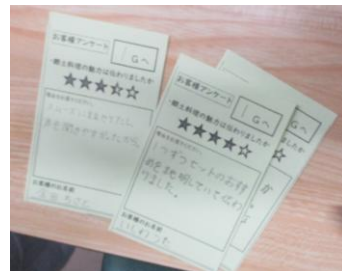
子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ ご当地レストランの開店に向けて、ペアのグループと一緒に料理を紹介したり注文したりする練習を行っている。お客様アンケートを渡し合い、「注文や会計のやり取りができた。」「料理の紹介もできたけど、もっと魅力を伝えたい。」という思いをもっている。 料理を紹介できた。 売れるメニューが偏っている。 もっと魅力を伝えられないかな。		
○あいさつ ○教科書のチャンツ・歌 ○言語活動の確認・前時の活動の振り返り どんなお客様アンケートをもらったか確認しよう よかったところ ゆっくり、ハキハキと笑顔で接客できた。 注文とお会計のやり取りは、自信をもってできるね。 改善したいところ 売れるセットが偏っている。選ばれなかった料理の魅力をもっと伝えられないかな。 料理の説明が少なかったから、魅力が伝わらなかった。もっと詳しく伝えたい。 料理の魅力をもっと伝えるには、どうしたらよいのかな？ ○全体交流 料理の様子や味を表す言葉を増やしてみよう。 食材も教えてくれたから、よく分かった。 Do you like ～?と、お客さんに質問をしているのがいいね。 ○グループで工夫を考える Black ramen is hot and spicy. It's delicious. This is beef. Beef is popular in Yamagata. Do you like fruits?と聞き、Yes なら果物をすすめて、No なら飲み物をすすめよう 味・様子・感想 食材 問いかけ ○他のグループとリハーサル/お客様アンケート 料理の味や様子、食材などを詳しく伝えることができた。 質問をすることで、お客さんの好みに合う物をおすすめできるようになった。 郷土料理の魅力を伝えられそうだ。自信をもって開店できるよ。 ○振り返り 郷土料理の魅力を詳しく伝えられるようになったよ。ご当地レストランを開店できる。	Unit5 までに積み重ねてきた話し方の工夫 注文・会計のやり取り グループで作ったランチメニュー ピクチャーディクショナリー（様子・感想、味、食べ物、食材） Unit1 Do you like ～? Yes, I do. No, I don't.	言語活動を確認し、前時に送り合ったお客様アンケートの内容を振り返る機会を設ける。そうすることで、注文や会計のやり取りがスムーズにできたという自信につなげ、本時では話す内容に着目できるようにする。 （視点1） 友達からもらったアンケートの結果を交流し、魅力をもっと詳しく伝えたいという思いをもつことができるようにする。 （視点2） 食材、味、様子・感想を表す言葉の掲示物を用意しておくことで、魅力を詳しく伝えるための新たな言葉や表現を取り入れることができるようにする。 （視点1） 他のグループの紹介の仕方のよさに目を向けるよう促し、情報を追加したり、お客さんに問いかけたりする工夫に気付くことができるようにする。 （視点2） 本時で新たに工夫したこと振り返ることで、次時のご当地レストラン開店への思いを高められるようにする。 （視点1）

【本時の評価】

もらったお客様アンケートを振り返ることを通して、既習事項を生かすとより詳しく郷土料理の魅力を紹介できることに気づき、料理の魅力を伝えるために言葉や表現を付け加えて伝えようとしている。
（行動観察・振り返り）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- レストランで使う注文のやりとりを、楽しみながらスモールステップで繰り返し行うことができるように単元を構成した。その結果、注文のやり取りに十分慣れ親しむことができ、本時でも自信をもってやり取りを行う姿が見られた。
- ご当地レストランを開くために、郷土料理について調べ、自分たちでメニューを考えたことで、自分のグループの郷土料理の魅力を伝えようと工夫する姿につながった。既習である味や様子、食材などを表す言葉のカードを掲示しておくことで、既習をつなげて表現する助けとなり、郷土料理の魅力を詳しく伝えようとする姿が見られた。
- お客様アンケートを交換する活動を通して、「郷土料理の魅力を伝えたい」という思いが高まった。

【課題】

- 注文のやり取りには自信があっても、料理の味や様子などを表す言葉は自信をもって言えない子もいた。様子などを表す言葉に慣れ親しむ機会を増やすことで、より自信をもって詳しく説明する姿を引き出すことができると考える。
- 「郷土料理の魅力を伝えたい」という思いをどの子ももつことができていたかは疑問が残る。「伝えたい」という思いを更に引き出す手立てを考えていきたい。
- “Do you like ~?”のように、お客さんに質問するという姿も想定していたが、そのような考えは出なかった。単元構成の段階で子どもの実態を丁寧に見取り、ねらいをより明確にする必要がある。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 「ご当地レストランを開いて、郷土料理の魅力を伝え合おう」という言語活動を設定することで、相手意識をもって伝え合うことができた。お店屋さんによる郷土料理の紹介を聞いて注文する品を決める、お客さんの注文を聞いて料理を提供するというやり取りの中で、相手の言葉をしっかりと聞いて受け止めようとする姿が見られた。
- お客様アンケートのやり取りを通して、互いのよさに目を向けることができた。アンケートを書く際には友達の良いところを発見し、受け取った際には自分のよさを自覚し、自信を深めながら活動することができた。

【課題】

- アンケートを書く目的をより明確にする必要がある。アンケートを通して友達の良いところを見付けたり、自分のよさを自覚し自信を深めたりすることはできていたが、見付けたよさを自分にも取り入れようとするところまではどの子も意識できていたとは言えない。他者の学びを自らの学びにつなぐためには、「互いのよさに目を向け、そのよさを自分にも取り入れる」というところまで意識できるように今後は活用していく必要がある。
- 複数のグループが同時に活動する中で、子どもたちのやり取りを見取り、褒めたり、価値付けたり、疑問や工夫を全体に広めたりする教師の関わりが十分ではなかった。的確に関わることができるよう、指導するポイントを絞っていきたい。